

## ゼミ紹介

「九大経済学部に入って良かったと実感した」——3年次生になってゼミ（演習）で勉強を開始した経済学部生の多くが、毎年こうした感想を寄せています。ゼミでは、1-2年次に身につけた経済学の基礎知識のもとに、より専門的な理論的・実践的課題に挑戦します。大学で勉強することの醍醐味が、そこにあります。九州大学経済学部では、ゼミは「必修科目」で、卒業までに必ず履修しなければなりません。また、受講人数も平均4~6名、最大でも約10名と決められており、教員によるきめ細かい指導が行なわれています。ここでは、異なる分野から6つのゼミをピックアップして、ゼミでの勉強について紹介しましょう。

### 潮崎 智美 ゼミ

経済・経営学科

財務会計を専門とする本ゼミでは、ビジネスパーソンとなるのに不可欠な会計学の知識やスキルをまず修得します。さらに、会計を通じて見えるグローバル化の諸問題についても研究します。ビジネスの言語ともいわれる会計のルールでさえもなぜ国や地域で異なっており、なぜ統一させるのが難しいのか。経済的・政治的・社会的環境の影響を受けて形成されている各国の会計の状況、その国際的相違、ならびにその相違を減少させる取り組みなどの研究を通じて、考え方の異なる他者の価値観・信念をいかに受容していくか、いかに共有していくかといった未解決の社会経済的問題に挑みます。

また、ゼミでは、学生の自主性を尊重しながら、ゼミ内でのグループワーク・ゼミ合宿、学内外・国内外の研究室との合同ゼミ交流会、国内外の企業や監査法人の訪問・インタビュー、国内外での研究発表などを積極的にに行い、専門性・国際性・社会性・人間性を養っています。これらの経験を通じて、経済・経営の知識やスキルの修得にとどまらず、人間的に魅力のあるリーダーを育成することを目的としています。

### 水野 敦子 ゼミ

経済・経営学科

開発経済を専門とする水野ゼミでは、開発途上国・地域の経済開発について学びます。3年生でのゼミ学習は、やや専門的なテキストの輪読から開始します。輪読を通じて開発経済の基礎的な知識を修得し、開発途上国の抱える課題を考察します。また、日本の国際開発援助に関連する機関を訪問し直接話を聞くことで、理解を深めます。これまでJICA九州、途上国へ技術支援をしている福岡市水道局やベトナム人研修生を受け入れている大山農協などを訪れました。

次いで、メンバーの研究関心を考慮してグループを編成し研究に取り組みます。例年3つのグループに分かれ各々で研究課題を設定します。資料収集に手間取ったり、研究を進めるなかでチームワークが乱れたりといった苦労もしますが、学内インゼミでプレゼンを行い、研究成果をまとめあげたときには、達成感を味わうことが出来ます。

4年生では、グループ研究の経験を生かしてゼミ論文を作成します。これまでの5年間で45名の卒業生が、企業や官庁に就職したり、大学院に進学したりと様々な進路に進みました。現在は、3・4年生と大学院生、研究留学生の24名が共に学んでいます。

### 鷺崎 俊太郎ゼミ

経済・経営学科

日本経済史を専門とする鷺崎ゼミの目的は、①テキストの輪読を通じて、徳川期～近代の日本経済を現代の諸問題と照合しながら分析するとともに、②歴史や経済の舞台となった現場をフィールドワークで訪れ、③卒論・修論を通じて、自ら設定した課題をアカデミックに、且つオリジナリティーを持って解明できることの3点にあります。一昨年の3年生は、帝国データバンク史料館主催の特別展「地場“讃”業展」における学生パネル展示部門に研究成果を出展し、うち1班が優秀賞を受賞しました。また昨冬の東京合宿では、班の研究内容に合わせて、大宮の鉄道博物館や本所のたばこと塩の博物館などを訪れ、実物の史料を通じて学習してきました。これまでの9年間に学部生93名と大学院生8名が卒業・修了し、多種に及ぶ企業や官庁、学界などで活躍しています。今年度は、学部生23名と大学院生2名が在籍し、インターゼミ・インナーゼミ、卒論・修論制作に向けた実証研究に取り組んでいます。以上の活動は、facebookページ「九州大学 鷺崎ゼミナール」に掲載していますので、ぜひご覧ください。



【上】欧州中央銀行訪問  
【下】海外の特別講師を迎えるゼミ風景



【上】ゼミ論文の完成  
【下】年度初めの集合写真



【上】2018年度ゼミ生（9-10期）集合写真  
【下】2019年度ゼミ生（10-11期）集合写真